

平成24（2012）年度
東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻
修士課程（社会情報学コース・特別選考枠）
入学試験問題
専 門 科 目

（平成23年8月22日 14：00～16：00）

試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。開始の合図があるまで、下記の注意事項をよく読んでください。

1. これは、社会情報学コース・特別選考枠の問題冊子である。
2. 本冊子の本文は4ページである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には申し出ること。
3. 解答用紙は5枚ある。第1問・第2問は、問題ごとに解答用紙1枚を使用すること。第3問は、選択した用語ひとつひとつについて、それぞれ1枚ずつの解答用紙を用いること。このほかにメモ用紙が1枚ある。なお、解答用紙のみが採点の対象となる。
4. 解答用紙の上方の欄に、問題の番号（例：第1問）、第3問は問題の番号と選択した用語の番号（例：第3問（18））及び受験番号を必ず記入すること。問題の番号、用語の番号及び受験番号を記入していない答案は無効とする。
5. 解答には必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用すること。
6. 解答は日本語によるものとする。
7. 試験開始後は、中途退場を認めない。
8. 本冊子、解答用紙、メモ用紙は持ち帰ってはならない。
9. 次の欄に受験番号と氏名を記入せよ。

受験番号	
氏 名	

社会情報学（特別選考） 第1問

次の英文を読み、以下の問いに日本語で答えなさい。なお、英文は部分的に修正してある。

下記出典の文章を掲載しています。

出典 Coombs, W.T., *Ongoing Crisis Communication – Planning, Managing, and Responding* (2nd ed.) (published by Sage Publications, 2007) p. x

(1) 下線部(a)について、その理由として著者が挙げていることを2つ以上挙げ、200字程度で説明しなさい。

(2) 下線部(b)について、著者はどのような課題が多く企業にあると指摘しているか、本文に即して200字程度で述べなさい。

(3) 下線部(c)に“Tower of Babel Effect”とあるが、どういう状態を指しているのか本文に即して100字程度で述べなさい。

【(4) は次頁に続く】

（４）著者は本文の直前で、情報化の進展には、“**crisis management**”にプラスとマイナスの両面があると述べている。本文を踏まえて、そのプラスとマイナスの両面を具体的に挙げ、あなたの考えを 600 字程度で述べなさい。

社会情報学（特別選考） 第2問

学際情報学府入学後の研究計画を 1400 字程度でまとめなさい。ただし、(1) 研究の目的、(2) 意義、(3) 関連研究との関係、(4) 具体的な研究内容について、項目を分けて記述すること。

社会情報学（特別選考） 第3問

以下の（１）～（１８）の中から、3 つの用語を選択し、その用語の意味をそれぞれ 400 字程度で説明しなさい。ひとつの用語について、1 枚の解答用紙を用いなさい。その際、必ず選択した用語の番号を解答用紙に明記すること（選択した用語の番号が記載されていない回答は無効とする）。

- （１）自由権と社会権
- （２）「宴のあと」事件判決
- （３）公衆送信権と送信可能化権
- （４）CIE 映画
- （５）テオドール・アドルノ（Theodor Adorno）の文化産業論
- （６）臨時災害放送局
- （７）政策の窓（policy window）
- （８）チキン・ゲーム（chicken game）
- （９）安全保障のジレンマ（security dilemma）
- （１０）ジニ係数
- （１１）プライマリー・バランス
- （１２）グリーン IT（又はグリーン ICT）
- （１３）CMC 研究における「キューレスネス・モデル（cuelessness model）」
- （１４）説得研究における「ローボール・テクニック（low-ball technique）」
- （１５）B.Latané らが提唱した「傍観者効果（bystander effect）」
- （１６）社会構築主義
- （１７）文化資本
- （１８）対内倫理・対外倫理（マックス・ウェーバー）